

「みんなの願い」をかなえる 春里架け橋プロジェクト



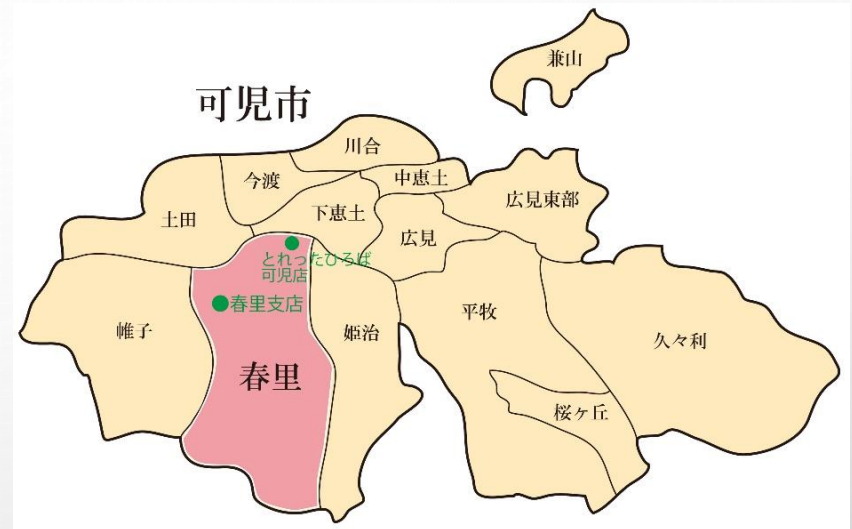
春里架け橋プロジェクトの特徴

- ①人と地域が主役、「小さな農」を推進
- ②SDGsを意識、PDCAで一步步
- ③新たな人の関りや活動、事業を創造
- ④食農活動ですすめる「地産地消」
- ⑤「全方良し」、JAの総合力発揮

春里地域は、稲作中心の農業地域、 栗の生産もおこなわれてきた

《地域の概要》

- ・ 可児市の南西部に位置し、多治見市、犬山市と隣接しています。
- ・ 面積は12.6Km²、約2,500の世帯で6,500人が暮らしています。
- ・ 稲作を中心とした農業地帯で、栗の生産も盛んです。
- ・ ゴルフ場開発や団地開発がすすみ、北部の坂戸地区は、商業地域としての開発が進んでいます。



春里支店

基本的な考え方

地域を元気
にする

農業振興を
すすめる

地域交流を
すすめる

ＪＡの総合力
を活かす

次世代を中心に食農
活動をすすめる



持続可能な開発目標【SDGs】を意識

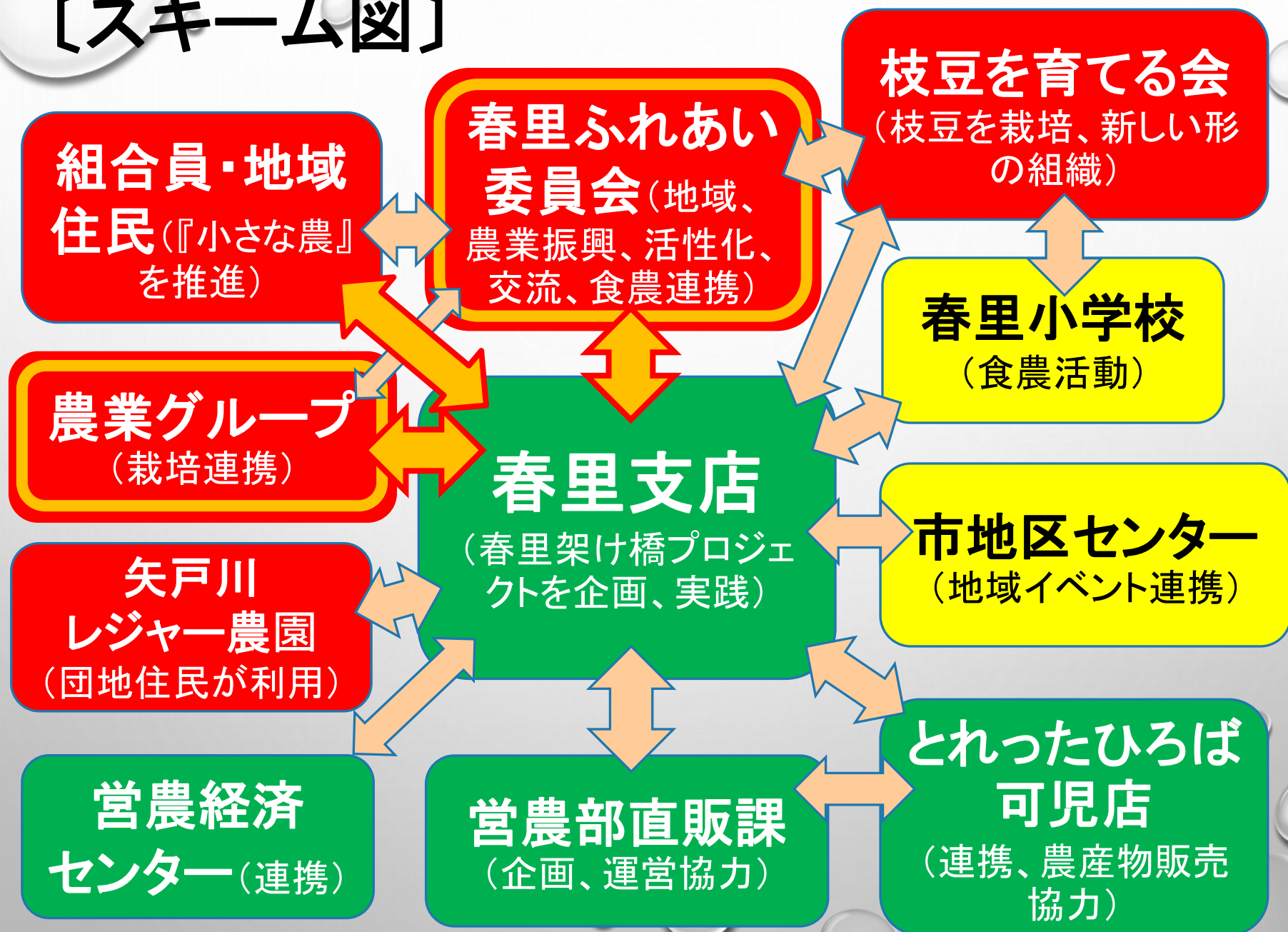


農業を営み、豊かな食生活を送る⇒安心、安全な農作物をつくり、健康的な食生活を送る

広い世代に食農活動⇒食料生産の仕組みに関する教育、食の大切さを学ぶ機会を提供

農業を中心に地域の活性化⇒地域を守る農業の価値の再発見、農を中心としたふれあい活動

〔スキーム図〕



〔令和元年の主な活動〕

●野菜苗プレゼント

⇒小さな農を広める活動

●「あぐりスクール」開校

⇒次世代に食農活動

●休耕地で「ソバ」を栽培

⇒地域農産物栽培実験

●「春里枝豆を育てる会」発足

⇒新しいかたちの組織を模索



『枝豆をつくる』目的のもとで組織化

生産者、消費者でつくる組織＝枝豆を育てる会

- 生産者⇒特定の農産物のみ栽培（消費者でもある）
＝安全でおいしい枝豆を食べたい、作りたい
- 消費者⇒家庭菜園等で少量栽培（生産者でもある）
＝安全でおいしい枝豆を食べたい、作りたい

◇目的は同じ。同じカテゴリとして一緒に活動する、新しい形の地域コミュニティを目指した。



〔令和2年度の主な活動〕

- 「春里枝豆を育てる会」の活動開始

- ⇒一般募集、結成

- 「春里キッズ農業体験」を新企画

- ⇒コロナ禍の中でも可能な食農活動

- ⇒枝豆等の収穫、取り組みの紹介

- 春里小学校で枝豆授業⇒活動と連動

- 枝豆苗等のプレゼントの継続⇒活動と連動